

2026年6月22日

2025年度収支決算の概要について

青山学院財務部

2025年度決算報告書（学校法人会計及び収益事業会計）は、2026年6月11日開催の理事会で承認されましたので、ここにご報告いたします。決算の詳細は、貸借対照表、事業活動収支計算書、資金収支計算書等をご覧ください。

決算のうち事業活動収支の概要をご説明いたします。事業活動全体では、事業活動収入計421.6億円、事業活動支出計385.1億円により、基本金組入前当年度収支差額は36.5億円の収入超過となりました。

事業活動別では、教育活動収支差額は41.0億円の収入超過です。教育活動収入の主なものとして、授業料等の学生生徒等納付金300.9億円は、大学の学生数増加や学費漸増、高等部、中等部、幼稚園の学費改定効果などにより、学院全体で前年度比6.0億円の増収となりました。手数料19.5億円は大学などの志願者数が増加したことにより前年度比1.0億円の増収となりました。寄付金17.0億円は万代基金に多くのご賛同をいただき、前年度比3.9億円の増収となりました。経常費等補助金56.4億円は、大学の授業料等減免費交付金19.3億円が大幅に増加したことなどから、前年度比12.5億円の増収となりましたが、授業料等減免費交付金は同額を教育研究経費の奨学費に計上しています。教育活動支出のうち人件費189.2億円は、退職給与引当金繰入額が前年度より減額したことにより前年度比1.8億円の減少となりました。教育研究経費164.9億円には、大学修学支援新制度による奨学費19.3億円、教育研究システム更新10.8億円、ICTネットワークシステム経常経費5.5億円、新ID管理システム構築費用1.5億円などが含まれています。

教育活動外収支差額は10.5億円の収入超過となり、教育活動収支差額と教育活動外収支差額の二つを合わせた経常収支差額は51.6億円の収入超過となりました。

経常的な収支を除いた特別収支差額では、学校法人会計基準改正により、期首に当年度の賞与支給に備えた賞与引当金特別繰入額14.0億円を計上したことから15.0億円の支出超過となりました。経常収支差額と特別収支差額の合計が、基本金組入前当年度収支差額36.5億円になります。

このほか、資金収支計算書では、大学緑が丘グラウンドクラブハウス増築費用を建設仮勘定支出に計上し、増築工事は2026年度に完成を予定しています。その他、計画的修繕工事として、相模原キャンパス空調用設備更新、旧女子短期大学図書館空調熱源機器設備更新、高等部西校舎照明設備更新、中等部南校舎アリーナ空調設備更新、初等部低中学年棟照明設備更新などを実施いたしました。

2025年度は、学校法人会計基準改正により、新たに賞与引当金を計上したため支出面での増加要因がありましたが、各設置学校における学費増収や手数料増収の取組みにより、目標を上回る経常収支差額を確保することができ、全体として堅調な決算となりました。しかし今後は、教育研究へのさらなる投資、未来構想に連なる各種施策の実施、老朽化建物の建替えを中心とした再開発計画、既存施設の計画的修繕・維持管理費用の増加、さらには人件費のベースアップ、物価・建築費の高騰など、多くの支出増要因が見込まれています。こうした状況を踏まえ、安定した学校経営をいかに維持していくかが今後の大きな課題であり、長期的な視点を持ちながら必要な投資を継続していくため、財務基盤のさらなる強化が必要であると考えています。

以上